

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	1	学校名	県立高萩高等学校					課程	定時制		学校長名		黒崎 かおる				
教頭名	綿引 博			鎌田 智之							事務（室）長名		松本 隆				
教職員数	教諭	27	養護教諭	1	常勤講師	6	非常勤講師	13	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	5	技術職員等	4	計	62
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		27	26	38	24	36	19	3	4	104	73	12				

2 目指す学校像

(1) 生徒と教職員がお互いを信頼し、協働して成長できる学校	(2) 一人ひとりの多様性を認め、個に応じた支援をする学校
(3) 柔軟なカリキュラムで、希望に応じた進路実現を目指す学校	(4) 誰にでも居場所があり、安心して自己実現を図れる学校
(5) 主体的な学習や体験を通し、社会性や勤労観を育む学校	

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	①自分の意見を伝え、他者の意見を聞きながらよりよい課題解決法を見出す人財 ②地域・社会の課題に関心を持ち、自己の能力を活かして、社会貢献できる人財 ③他者と協働して、課題解決を図っていく人財
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	①多様な学校設定科目から、個に応じた科目選択 ・体験型の学習（リズムエクササイズ、日本の伝統文化《茶道・華道・書道》、折り紙） ・異文化理解（韓国の言語と文化 1・2） ・基礎学力定着（基礎数学、基礎から学ぶ英語、基礎国語Ⅰ、ベーシック社会など） ②フレックスならではの科目 ・ライフスキルを高める心理学…自己理解・他者理解を深め人間関係を構築する力を養う ・魅力！いばらきの農業…生産、収穫を通して勤労意識を高め社会貢献する喜びを学ぶ ③柔軟なカリキュラムの構築による主体的・対話的な学習や特別活動、ボランティア活動などの体験を通し、社会性や勤労観を育み、個に応じた進路実現を目指す ④通級指導の効果的な実施（必要に応じて外部専門機関等との連携推進）
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	①自己分析しメタ認知することで、得意を伸ばし、苦手を克服しようとする生徒 ②探究心を高め、自分の進路実現を目指し日々努力する生徒 ③学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒

別紙様式 1 (高)

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践を目指し、授業強化週間での相互授業観察や校内・郊外研修を通して、学習指導法の工夫・改善に取り組んでいる。また、個に応じた適切な支援を行い、生徒一人ひとりが主体的に学習する態度を養うとともに、基礎学力の向上に努め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実践に取り組んでいる。	・『わかる授業・生徒への対応の工夫』の共通理解の深化と相互授業観察やICT機器の活用による学習指導法の工夫改善 ・観点別学習評価と生徒個々の達成度による評価を活用した指導と評価の一体化の推進、及び授業改善と基礎学力の定着、自己表現力の向上
進路指導	生徒一人ひとりの希望に応じた適切な進路指導と、早期に進路目標を決定させ、目的を持った充実した学校生活が送れるよう生徒育成に取り組んでいる。そのため、生徒面談を定期的に行い、進路意識を高めるとともに、個々の適性や長所を活かした進路選択ができるよう指導している。	・将来を見通したキャリア教育の充実 ・きめ細かなキャリアガイダンスと進路情報の提供による進路意識の向上 ・社会人・職業人として生きがいを持って生きていく生徒の育成
生徒指導	各月1週間を見守り・声かけ強化(フレックス・マナーアップ)週間と位置づけ、全職員で始業前・終業後声かけなどの指導を行い、生徒事故の未然防止、制服の着こなし、心身の健康状況把握等、安全・安心確保に取り組んでいる。また、生徒と積極的にコミュニケーションをとり、信頼関係の構築に努める一方、カウンセラー等や必要に応じて関係機関との連携を密に図り、生徒の悩みや相談に親身になって対応し、問題の早期発見に努めている。	・個別面談の充実による生徒理解の深化と信頼関係の構築 ・学校カウンセリング体制の充実・キャンパスエイドの活用、及び心の居場所の確保 ・安心して学べる環境と居場所の構築・充実
特別活動	運動部・文化部とも人数が少ない中で活発に活動している。目標達成に向けて継続して活動することで、自己有用感・自己肯定感が高まることから、部活動参加を強く勧めている。また、生徒会役員やJRC部などを中心に年間を通してボランティア活動を実施し、地域社会へ貢献することで奉仕の精神を育んでいる。	・地域行事やボランティア活動への積極的な参加を推進、家庭や地域社会と連携・協力して生徒の成長を促進 ・生徒の自主性を育む生徒会活動の活性化 ・部活動加入率の向上と各種行事、各種大会やコンテスト参加の活性化 ・キャリアパスポートの効果的活用
働き方改革	本校生徒の豊かな学びを保证するため、独自性の高い教育活動を展開することで、生徒・保護者から満足度で高い評価を受けている。一方、個々の生徒と真摯に向き合い、生徒の心情に寄り添って、きめ細やかな指導を実践しているため、勤務時間外の在校等時間が上限を超過している教員も散見される。	・月平均45時間超過者を出さないために、業務負荷の適正化や業務の見直し、ICTを有効活用した業務削減、効率化の推進 ・管理職からの指導・援助に基づく個々の業務改善の促進

別紙様式1（高）

5 中期的目標

- （1）ICT機器を積極的に活用し、『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践と生徒一人ひとりに応じた学習指導法の工夫改善に努める。
- （2）生徒一人ひとりが主体的に学習する態度を養うとともに、基礎学力の向上に努める。
- （3）個別面談の充実による生徒理解を深め、生徒との信頼関係の構築に努める。
- （4）きめ細かなキャリアガイダンス・進路情報の提供による進路意識の向上に努める。
- （5）地域行事やボランティア活動への積極的な参加を推進し、家庭や地域社会と連携・協力して生徒の成長の促進に努める。
- （6）学校カウンセリング体制の充実・キャンパスエイドの活用とともに、心の居場所の確保に努める。
- （7）本校のこれまでのノウハウの蓄積を活かし、校内組織や教育活動、業務内容及び進行手続きの改善等に取り組むことで「働き方改革」を一層推進し、教職員が健康的で協働性が高く、やり甲斐をもって職務を遂行できる職場環境を整え、本校生徒の学びをより豊かにすることに努める。

6 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
（1）基礎学力の定着に基づく、確かな学力を育む教育の推進	『わかる授業・生徒への対応の工夫』の実践のため、相互授業観察を通しての学習指導法の工夫改善を図り「わかる授業」「主体的に取り組む授業」「課題の発見・解決に繋げる授業」の充実に努める。加えて、1人1台のICT端末を有効活用し、生徒に学ぶ喜びや楽しさを実感させ、基礎・基本の定着の及び、主体的・意欲的に学ぶ態度の育成に努める。
（2）全職員の共通理解に基づく授業改善の推進	授業強化週間を利用して相互に授業を参観したり、効果的な授業実践に係る校内研修などを実施したりして、互いに研鑽し合いながら教員一人ひとりが授業力の向上に努め、生徒に「理解できた」という達成感を持たせると共に、生徒が自ら興味関心をもって、主体的に学びに向かう姿勢の涵養に取り組み、探究心の向上をはかる。（「生徒による授業評価」の「授業満足度」の項目に係る評価平均値3.2以上）
（3）生徒一人ひとりに応じた、きめ細かな支援体制・特別活動の推進	個別面談の充実を図り、生徒理解に努め生徒との強い信頼関係を構築する。また、学校カウンセリング体制の充実を図り、心の居場所の確保とともに安心して学べる環境の構築・充実に努める。さらに4年目となる「通級」指導については、全職員の共通理解の下、必要に応じて外部専門機関等と連携協力しながら実施する。 生徒の自主性を育みながら、生徒会活動を活性化し、特別活動や部活動の充実を図りつつ、各種大会やコンテスト等への積極的な参加を促す。さらにキャリアパスポートを活用して、達成感、活動意欲を味わい、思いやりの心、規範意識、公共心を醸成し、心豊かな人間性の育成に努める。
（4）生徒一人ひとりに応じた、きめ細かなキャリア教育の推進	将来を見通したキャリア教育の視点に立ち、各年次段階に応じたきめ細かなキャリアガイダンスや進路情報の提供を通して進路意識の向上を図る。また、生徒一人ひとりに望ましい勤労

別紙様式1（高）

	観・職業観を育み、キャリアパスポートを活用して、将来、社会人・職業人として生き甲斐を持って生きていく生徒の育成に努める。
（５）地域に貢献し、地域と連携を深め、地域に開かれた学校づくりの推進	積極的な学校公開や科目履修生の受入、地域行事やボランティア活動への積極的な参加を推進し、家庭や地域社会と連携・協力して生徒の健やかな成長を図る。また、ホームページや各種広報活動を通して、フレックススクールとしての特色ある教育活動への理解と協力を得るよう努める。
（６）校務の精選とPDCAサイクルによる学校運営の改善、及び働き方改革の推進	本校の教育活動及び業務について、生徒の自立支援の観点から見直しを進め、必要性の低い業務は削減・縮減し、教職員のマンパワーを必要な業務に注力し、PDCAサイクルを用いて改善を図り、より効果的な学校運営に取り組む。また、校務・情報の共有化と視覚化により、業務分担を明確化し、教職員の勤務時間と業務負担の適正化に努めるとともに、生徒の学びをより豊かなものにできるよう努め、本校の働き方改革を推進する。